

統的な運行体制を確立することは今後の公共交通施策を進めていく上で極めて重要であると考えています。

「ぐるりんおおず」の運行、特に車両に関しては、これまでバス事業者の経費負担によるところが大きく、健全経営と安定的かつ継続的な運用を行っていくためには、今後はこれらの費用を市において負担することが必要不可欠と考えており、補助金の算定や支出の方法等について見直しも視野に入れて検討を進めていきたいと考えています。

山鳥坂ダム及び県道の早期改良

問 山鳥坂ダム事業再開に伴う説明会の開催と生活道路の改修を早期に実施すべきではないですか。

答 山鳥坂ダム建設事業の再開に伴う住民説明会の実施については、ダム検証の過程、結果については予断なき検討により情報公開を基本に住民意見を聴く場の設置や、書面による意見受け付けなど十分な説明が行われてきていると考え

ており、ダムの必要性等について改めて説明の必要はないものと考えていますが、ダムの建設に当たって、用地提供など関係される皆様への周知については、必要に応じて順次実施されていると聞いています。

県道小田河辺大洲線は、地域の基幹道路でありながら長年未改良の状態となっており、水源地域の皆様はもとより、河辺地域の皆様にも大変な御不便をおかけしております。県道改良については、国土交通省山鳥坂ダム工事事務所では、今年度からつけかえ県道工事に伴う工事用道路の整備や



県道55号線

現県道の通行車両安全確保のための待避所設置など検討が進められています。基本的には生活道路として利用されている県道、市道の利便性の確保を行った後につけかえ県道の工事に着手されるものと考えており、市としては利用される住民の皆さんの安全を第一に早期着工、早期完成となるよう機会あるごとに要望を行っていきたくと考えています。

自主防災組織活動への支援体制

問 それぞれの地域の実情に合った自主防災組織活動への支援体制をどのように考えていますか。

答 大規模災害時には公助に限界があることから自助、共助の精神に基づく自主防災組織の活動が重要となってきました。市では消防機関と連携し市町村合併後の重点的な取り組みとして各地区における自主防災組織の結成を呼びかけ市民の皆様の御理解により、市内全地区での結成が実現した後組織運営とともに考え、防災に関するさまざま

な情報提供に努めながら訓練、講習等での指導、助言を行ってまいりました。各地区で行われる日頃の防災活動も徐々に定着し、昨年度も全ての地区で主体的な訓練、講習など90件が実施されており、合わせて約4,000人の市民の皆様が参加されています。

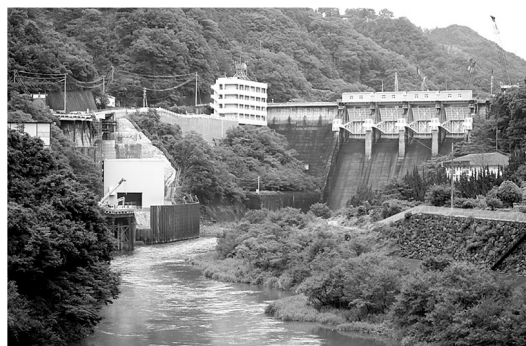
市では、それぞれの自主防災組織でこうした主体的な取り組みが継続できるよう、機会あるごとに各地区への呼びかけを行うとともに、平成24年度からは危機管理課に防災専門官を配置し、きめ細かな指導、助言を行うことができるよう支援体制をさらに強化していきます。風水害、地震、津波などの自然災害や原子力災害などさまざまな事態に備え、まずは家庭や地域でできる身近な取り組みを行うことが私たち一人一人の命を守ることに繋がってきます。

今後とも、情報伝達、避難行動、救命、初期消火などさまざまな活動メニューを提供し自主防災組織の取り組みを支援していきたく考えています。

鹿野川ダム改造の効果

問 鹿野川ダム改造事業の進捗状況と完了後の治水効果をどのように考えていますか。

答 鹿野川ダム改造事業は、総事業費420億円、平成27年度末の完成を目指し整備が進められています。改造事業の柱の一つであるトンネル洪水吐工事については、平成24年1月から本体工事に着手され、現在24時間体制で下流側からトンネル掘削が行われているところであり、本年度中には概ねトンネル部の掘削は完了



鹿野川ダム洪水吐き工事